

めざす子ども像

- みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
- 「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
- 共に汗して働くことのできる子ども

取組目標

すべての園児・児童・生徒に15年間の連続した「学び」を保証するために、地域の力を活用しながら学校園の教育活動を支援する。また、学校園を核とした地域コミュニティの活性化と、地域の教育力を高めるための協働により、地域に園児・児童・生徒が活躍できる場を作ることによって「自己有用感」の育成を図る。

【今年度の取組紹介】

今年度も例年通りSAKURA夢フォーラム、SAKURA夢フェスタをはじめ様々に計画しましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止を最優先に考え残念ながら中止といたしました。

そのような中でしたが、SAKURA夢スクールは感染防止対策に注意をしながら英会話・編み物の2講座を開講することができました。



【今年度のまとめ】

様々な計画を何とか実施できるように検討しましたが多くの事業を実施することができず残念に思います。

【来年度に向けて】

新型コロナウイルスの感染状況の予測は難しいですが、子どもたち・学校園・地域が協力して事業の実施に向けて検討していきたいと思っております。

めざす子ども像

- みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
- 「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
- 共に汗して働くことのできる子ども

取組目標

自己有用感を育成し高めることで、学習への意欲回復・基礎学力の向上と規範意識の育成につなげる。

今年度の取組紹介

「地域に開き、地域と共につくる学校」をテーマに様々な活動を計画しておりましたが、コロナ禍での活動は難しく、ほとんどの活動をやむなく中止することとなりました。しかし、活動や行事は出来なかったものの、今までの取組が実を結んでいるのか、アンケートの結果からは、生徒の学校や地域を思う心が育てられていると感じます。

図書館運営においては、継続的に地域ボランティアの方々による協力のおかげで読書推進活動が行われています。今年度は図書室の利用を制限しましたが、図書室内のリフォームを大々的に行いました。制限がなくなり、自由に図書室を利用できるようになったときの生徒の反応が楽しみです。



クリーンキャンペーンの様子

今年度のまとめ

今年度に関しては、やはりコロナの影響は大きく、スローガンである「地域で子どもを育てる」という地域の方々とともに行う様々な取組ができませんでした。

出来なかったからこそ、改めて地域の方々との交流の大切さを再認識できました。

また、活動をすることができたものに関しては、やはり生徒への影響が大きく、自己有用感の高まりにつながり、自己形成の一助になっていると感じます。

来年度に向けて

来年度も「地域に開き、地域と共につくる学校」をテーマに掲げ、事業を推進していこうと考えています。地域の人にさらに学校へ足を運んでもらう取組を継続しながら、その中で地域の方々との触れ合いを通じて、生徒たちが「自己有用感」を感じ、さらには地域の一員としての認識の向上や規範意識の醸成につながればと考えています。

めざす子ども像

- みんなで力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
- 「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に生かせる子ども
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
- 共に汗して働くことのできる子ども

取組目標

学校と地域が連携・協働して学習環境を整備することを通して、子どもが地域の
一員であることを自覚し、地域に誇りをもって生きようとする姿勢を育む。

【今年度の取組紹介】

本校の地域の方々は「子どもは地域で育てる」ということを大切にしており、学校・地域・家庭が連携・協働して事業を進めています。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響下での事業の実施のため、できるだけ少ない人数でできる活動に絞って取り組みました。

○ 絵本の読み聞かせ活動

毎週水曜日の朝の読書の時間に地域の方に来ていただき、絵本を読んでもらいました。今年度は10月からのスタートで1年生を中心に読みに来ていただきました。それまでは、活動が制限されたり他の人との接触を極力減らすことが求められたりするなど窮屈な環境だったので、読み聞かせの時間は子どもにとって一服の清涼剤のような時間となりました。終わった後は、楽しそうに読んでもらった絵本の話をしている姿が見られました。

**【今年度のまとめ】**

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年行っている事業のうち屋内での活動や多くの方が交流するような行事については実施できないまま終わってしまいました。

上で紹介した絵本の読み聞かせ活動も当初は実施がむずかしいと思われていたのですが、何とか実施できました。人とのつながりが希薄になりそうな状況で、絵本が人と人をつなぎ、子どもの心を癒す大切な時間となり、意義のある活動になりました。環境整備事業では、いつもより少ない人数での作業でしたが、学校の環境整備を委員会や高学年の子どもたちと一緒に学び学習環境を整えました。

【来年度に向けて】

新型コロナウイルスの感染状況によって活動が実施できなかったり制限されたりしました。来年度も同様の状況が考えられるため、今年度できなかった活動の取り組み方について検討し直したり、新しい活動を模索したりすることも必要だと思えます。これまでのよさを踏襲しつつ、新しい取組にもチャレンジしていきたいと思えます。

めざす子ども像

- みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
- 「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に生かせる子ども
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
- 共に汗を流して働くことのできる子ども

取組目標

活動の中で子どもたちが地域とのつながりも感じられるような地域と密に連携した環境整備、学習支援活動等の取組の充実。

【今年度の取組紹介】

○環境整備事業

学校園や学級園の整備を行っていただき、子どもたちとともに季節に応じた様々な草花の栽培を行っていただきました。

季節ごとに玄関や職員室前の廊下の飾り付けをしていただき、きれいな手作りの飾りに、みんな足を止めて見入っていました。また、年末には松の剪定もしていただきました。

○学習支援活動事業

家庭科の実習で協力いただきました。裁縫の実習では、ボランティアの方に補助をしていただき、ミシンの使い方等をはじめ、裁縫に関する手ほどきを優しく教えていただきました。

○読書力向上事業

絵本の読み聞かせボランティア「お話ドラゴン」のみなさんが、毎週水曜日に朝の学習時間を使って絵本の読み聞かせをして下さりました。また、学校図書館の整備を、図書館司書の先生とともに行っていただきました。児童も読書を楽しみにし、児童の読書力向上へつながってきています。



○児童の安全指導事業

毎日の登下校時に児童の見守りをしていただきました。また、1年生の給食が始まるまでは地域ごとに分かれ、一緒に下校していただきました。

【今年度のまとめ】

コロナ禍という、困難な状況の一年となりましたが、そのような中でありながら今年度も地域の方々に様々な面でご協力いただきました。ペンキ塗りや職員室前廊下の飾りつけははっきりと実感できる変化でしたし、登下校時の見守り活動や家庭科の実習補助、学級園での草花の栽培等においては、制限を設けながらの活動とはいえ、地域の方々と触れ合いながら活動したので、児童はたくさん地域の方々に支えていただいているということを実感できたようでした。

【来年度に向けて】

依然として続くコロナ禍の中で、継続して行えるもの、一旦取りやめなければいけないもの、新たに活動を始めていくもの等、どのような活動ができるのかを模索していくことが引き続いての課題となってきます。

活動ボランティアが高齢化し、ボランティアを卒業される方が増えてきているという現状があります。新たな人材を発掘し、現状並みの人数を確保できるよう地域に働きかけていく必要があります。また、多くのボランティアの方に力を発揮していただき、人材を有効に活用することができるよう運営委員会を中心に活動内容や連絡体制を見直していく必要もあります。そしてより活動の活性化を図れるようボランティアの皆さんの意見を聞き、取り入れていきたいと思っております。

めざす子ども像

- みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
- 「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
- 共に汗して働くことのできる子ども

取組目標

地域の教育力を活用し、継続性をもって学習環境や学習体験を豊かにしていく事業を目指す。

【今年度の取組紹介】

明治地区のみなさんに協力していただき、3年生は「地域のくらしを守る」学習をしました。消防団のみなさんと、「ポンプ車見学」「放水体験」「質問コーナー」の学習を行いました。「放水体験」では、1人ずつ子どもたち全員が実際に放水させてもらいました。体験させていただいたホースは細いもので実際の消火活動の6分の1の力だそうです。子どもたちにとってはなかなかのパワーで“本物に触れて”目を輝かせていました。消防団の方々は「普段は別の仕事をしていて、もし火事が近所であったら駆けつける」という大変な役割をされていることもわかりました。



現役の消防士さんからもお話を聞きました。子どもたちがこれまでに授業や体験活動から浮かんだ疑問に答えてもらう形で進めました。時間切れで聞ききれないほど、みんな熱心に学習することができました。お話を聞いて、「命をかけて火事から人を守る」使命感が子どもたちにしっかりと伝わっていることが授業後の「一人一言メッセージ」からわかりました。



自分たちの住んでいる町は、たくさんの人に支えられて、安全安心に暮らせるようになっていくことに多くの子どもたちが気づくことができました。地域の方から「直接お話を聞く」「本物に触れる」ことで、子どもたちにとってより身近に感じることができ、めざす子ども像にせまれたと思います。

【今年度のまとめ】

地域の方々と子どもたちが共に活動する機会をたくさん持つことで、子どもたちは地域の方々と親しみをもって触れ合い様々なことを学ぶことができました。子どもたちは地域の一員としての自覚と誇りを持ち、自尊感情を高める取組につながりました。今後も学校と地域が連携を図ることにより、子どもたちが自己肯定感を持てるような取組等を更に進めていきたいと思っています。

【来年度に向けて】

地域との連携を更に深め、新たな取組の創設、人材発掘に努め、今後も「地域と共に歩む学校」をめざして取組を続けたいと考えています。

めざす子ども像

- みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
- 「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
- 共に汗して働くことのできる子ども

取組目標

豊かな感性をもち地域とともに主体的に生きる子どもの育成

【今年度の取組紹介】

帯解小学校では、地域の方をゲストティーチャーとして招き、地域の方と共に活動したり、学んだりする取組を栽培活動や体験・交流活動、聞き取り学習として組み込んでいます。しかしながら本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、大半の事業を断念せざるを得ず、本来の地域で決める学校予算の活動ができない1年間となりました。そんな中でも、何とか実施できた事業2つの取組を紹介します。

5年生における栽培活動においては、地域の方からお借りした田で実際に粃まきから田植え、秋には稲刈りの体験をさせていただいていましたが、本年度は稲刈りのみの体験となりました。身近なお米の栽培に関わり、地域の方とつながることで、地域の良さを知り、感謝の心が育まれています。

1年生の体験・交流活動では、生活科の昔遊びの学習で、地域にお住まいの方をゲストティーチャーにお招きし、凧あげのやり方を



教えていただきました。地域の方々の

知恵をいただく貴重な機会となっています。こうした地域学校連携は、児童の豊かな感性の育成につながっています。

今後も「30万人の市民を先生に」という奈良市教育振興基本計画の基本方針実現のために、さらに地域の方と子どもたちがつながり、学びの輪が広がることを願って取組を進めています。



【今年度のまとめ】

本年度は、地域の方とともに学ぶ聞き取り学習や体験・交流学習・栽培活動が制限されましたが、毎朝の登校見守りや上記活動で児童が地域の方と関わる中で、学校だけでは学べない体験をし、豊かな感性の育成につながりました。地域の方との活動は、学校評価において、児童・保護者共に90%以上の肯定的な回答を得ました。学校教育の様々な場面で地域の方に見守られ、支えられながら地域の歴史を知り、地域に愛着をもつ子どもたちの育成を目指しました。

【来年度に向けて】

来年度も精華・帯解両地区の良さを生かした取組を大切にしながら、地域で学んだことを誇りに思う児童の育成と、豊かな感性をもち主体的に生きる子どもの育成を目指していきたくと考えています。また、取組の内容を多くの方に知っていただき、さらに継続・発展させていくために広報にも力を入れていきたく考えます。

めざす子ども像

- みんなと力を合わせなかまと共に高まっていく子ども
- 「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
- 共に汗して働くことのできる子ども

取組目標**豊かな心をもち、いきいきと活動する幼児の育成****【今年度の取組紹介】**

《ふれあい活動事業『ランラン広場』》

地域の民生児童委員さんにご協力いただき、製作、遊び、絵本の読み聞かせなど内容を工夫しながら楽しい時間を過ごす事ができました。今年度は民生主任児童委員さんが中心となりご来園いただきましたが、子どもたちも顔と名前を覚え、戸外で5歳児は「転がしドッチボール」、4歳児は「じゃんけんゲーム」を実施した回は、遊びを通して親しみの気持ちを持ち、子どもの方から積極的に関わる姿も見られました。



《ふれあい活動事業『ふれあい体操』》

明治小学校の体育館をお借りし、山本三歌代先生を招聘して親子で活動しました。打合せの際、家庭内でも楽しんでいただける内容になるように、タオルやポリ袋など身近な物を使用した活動を提案してくださいました。また、子どもと保護者1名の参加にさせていただきましたが、1対1のふれあいや、体を動かす楽しさなども親子で味わってくださいました。

**【今年度のまとめ】**

今年度は、コロナの影響もあり、実施できなかった活動もありましたが、新しい生活様式を踏まえた上で実施できるように、打ち合わせを重ね、子どもや参加者の動きや動線などを考慮した上で、内容を工夫して取り組みました。

子どもたちが様々な取組を通して、直接感動体験を味わい積み重ねられたことは、豊かな感性につながっていると思います。また、地域を身近に感じ、地域の方に親しみの気持ちをもてたことは、地域で生活する子どもたちにとっても、保護者にとっても、安心安全で暮らせることの一步につながると思っています。

【来年度に向けて】

引き続き、地域の方との交流や、地域の方の教育力をいかした多種多様な経験活動を通して、子どもの豊かな感性を育てていきたいです。また、子どもたちが地域の方に親しみの気持ちを持ち、人と関わることで得られる感謝の気持ちや、自分を取り巻く地域を大切に思う気持ちを育てていきたいと思っています。

めざす子ども像

- みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
- 「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
- 共に汗して働くことのできる子ども

取組目標

地域に開かれた幼保連携型こども園をめざして

【今年度の取組紹介】教育支援活動「地域の方から学ぼう！」

毎年運動会のオープニングで和太鼓を叩く年長児。年長5歳児32名も「自分たちの番だ！」と期待を持って過ごしていた中、今年度も地域の方に来ていただき和太鼓の指導をしていただきました。子どもたちは和太鼓を叩く地域の方の姿や力強い音、響きに心を打たれ

「かっこいい」「やってみたい」と、自然に大きな拍手がわきました。パチの持ち方はもちろん、手の上げ方や構え方などを教わりながら、実際に太鼓を叩くことで、自分の音、友達の音を聞き、響きやリズムを体で直に感じて楽しむことができました。5歳児はその体験をもとに日々和太鼓を練習し、たくましい姿を参観で保護者の方々に見ていただくことができました。また秋には、「生け花体験」を行いました。遊びの中で園内の花を使って遊ぶ経験とは違い、地域の方から花の扱い方、見せ方なども教わり、一人一人が好きな花を選び、作品として意識しながら仕上げることができ、作品展で多くの保護者の方に見ていただきました。



【今年度のまとめ】

地域の方と一緒に進めてきた事業は、地域の方とのふれあいや関わりの中で、親しみや憧れの気持ちを感じながら、地域の方の協力なしでは経験できない様々な体験や学び、感性を豊かにする経験となりました。生け花体験や花いっぱい運動で自然物に触れ、園内の環境を整えたり花を植える経験から、「お花を育てる人」になりたいという子どももいて、いつも違う形での自然物とのかかわりは大変貴重な機会になりました。また、畑の先生や地域の方々にご協力いただき取り組んでいる菜園活動や芋掘り・焼き芋パーティなども、これまで同様、継続しているからこそ経験として積み重なり、育てる喜びや収穫への期待、そして、食への意欲にもつながっていると感じています。また、体験している時だけではなく、園での生活や遊びにおいて体験・経験したことを活かして考える力にもつながっていると思います。感染症対策を行いながらの取組ではありましたが、こども園の教育・保育を地域の方々にご理解していただきながら、多くの協力を得て、事業や取組を進めることができたと思います。

【来年度に向けて】

コロナ禍で実施してきた今年度の取組方法を必要に応じて継続し、子どもたちの成長や経験につながるよう地域や保護者の方々の協力を得ながら、活動を計画するとともに、子どもたちが心を動かし夢中になって遊び込み、主体的に遊びを展開できるような園庭の環境を見直し整備したり、菜園、花壇づくりを進めていきたいと思っています。また、これらの事業や活動を地域や保護者の方とともに進めていき、こども園の教育・保育への理解をさらに深めていただけるようにしていきたいと思っています。

めざす子ども像

- みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
- 「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
- 共に汗して働くことのできる子ども

取組目標

- ・地域との関わりを通し、お互い認め合い、助け合い思いやる心を育てる。
- ・地域の良さを生かした、豊かで多様な体験をしながら、生きる力の基礎を培う。

【今年度の取組紹介】

高円子ども園では、地域の方を招いての環境整備事業「花いっぱい運動」を行ってきています。コロナ禍の中で少人数での活動になりましたが、地域の方と共に花壇やプランターなどに季節の花を植えました。土の掘り方や花苗の持ち方、植え方などを教わり植えることが出来ました。自分達で植えた花に愛着を持ち、自ら水やりをするなど花に興味を持ち、開花なども喜ぶ姿が見られました。また地域の方から、木製の手作りプランターなども頂き、様々な場所で植物と触れ合える機会となっています。また今年度より、生け花体験事業を講師の方を招いて行い、子ども達が花器に花を生けました。花の名前などを覚えたり、茎を切る長さなどを考えたりしながら子ども達なりの感性で生けることを楽しみました。生けた花は、後日作品展で園内の子どもや保護者の方に見て頂きました。「花いっぱい運動」や「生け花体験」等を通して、地域の方に親しみを感じ、感性を豊かにする経験を行うことが出来ました。



【今年度のまとめ】

環境整備事業「花いっぱい運動」や生け花体験、太鼓演奏など地域の方の協力を得ながら様々な体験や経験を積み重ねていくことが出来ました。様々な活動を通し子ども達は、優しい気持ち、思いやりの心を豊かにすることが出来ました。また年間を通しての太鼓演奏は、高円子ども園の特色の一つで地域の方も太鼓を披露する場を楽しみにして下さっています。子ども達も太鼓を演奏することで目標に向かって心を一つにすることや自信につながる取組となっています。また5歳児の太鼓を見たり、聞いたりすることで4歳児は、自分たちが太鼓を叩くことへのあこがれを抱きながら、普段の遊びの中で竹太鼓を5歳児から教えてもらい叩く姿も見られます。地域の方のご協力をいただきながらコロナ禍での活動となりましたが子ども達にとっては貴重な体験となりました。

【来年度に向けて】

子ども達が今後も地域の方との交流を深めながら、自分たちの住む地域に親しみを持ちながら、感性豊かなしなやかな心と身体を育む取組が出来るようにしていきたいと思えます。また、これらの活動を保護者や地域の方と共に進めながら、活動内容の充実をはかっていきたいと思えます。そして子ども園の教育・保育内容への理解を深めてもらい、開かれた地域の子ども園になっていきたいと思えます。

めざす子ども像

- みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
- 「学ぶ力」「生きる力」を身に付け、生活や将来に活かせる子ども
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
- 共に汗して働くことのできる子ども

取組目標**ひとりひとりの笑顔が輝く辰市こども園****【今年度の取組紹介】**

開園2年目を迎え、子ども・保護者ともに園の生活にも慣れ、安心して園生活を送るようになってきつつあります。

今年度はコロナ禍の中、新しい生活様式を身に付けながら、生活や遊び・行事に取り組んできました。

昨年度より継続している体力づくり事業「サッカー教室」は、地域に拠点を置かれている奈良クラブよりコーチを招き、体ほぐしから始まり、ボールに触れた遊び、最後にはチームに分かれミニゲームをしていただきました。子ども達は回を重ねるごとに思う存分体を動かすようになり、サッカー教室を心待ちにするようになりました。ミニゲームをする中で、友達同士切磋琢磨しながらボールを追いかけ、懸命にゴールを狙う姿が見られるようになりました。また、コーチにも親しみを持つようになり、笑顔で会話するようにもなってきました。

サッカー教室の始めと終わりにはきちんと整列し、コーチとあいさつを交わしたり、ゲームの中では簡単なルールを守ったりしながら遊ぶなど、規律や規範意識の芽生えにもつながっています。

2月には4歳児がサッカー教室に参加しました。楽しい経験をした子ども達は、「早く5歳さんになりたい」と、進級への期待にもつながりました。

**【今年度のまとめ】**

コロナ禍の中、地域の方との触れ合いができにくかったり、来園していただく事が難しかったりする現状にありました。その中でも、人数を制限したり、時間を短縮したり、また密を避けた環境作りを工夫しながら、事業に取り組んできました。地域の方からは子ども達が園で遊びや生活する姿を見ていただき、園教育を知ってもらう機会になりました。今後も地域に開かれたこども園となるように地域の方と共に歩んでいきたいと思います。

【来年度に向けて】

コロナ禍の中で、地域の方の教育力を生かした取組ができるように、今年度の経験をもとに、事業に取り組んでいきたいです。